

松くい虫の被害対策について

1 これまでの被害経過

- (1) 昭和 54 年に一関で初めて確認。平成 25 年度末時点で内陸部では盛岡市北部、沿岸部では大船渡市まで拡大。
- (2) 近年の被害量は 4 万 m³前後で推移。(H25 : 43,650 m³)
- (3) 平成 26 年度は、盛岡市玉山区、八幡平市、岩手町で新たに被害を確認

【被害拡大の要因】

- (1) 地球温暖化による、媒介昆虫であるマツノダノミの生息域の拡大と活動の活発化。
- (2) 森林の経営意欲の低下に伴い、間伐などの手入れが不足した松林が増加し、マツノダノミが繁殖しやすい環境が醸成。



※H11～15に高温少雨の夏が連続し、被害地域の拡大とともに、被害量が増加。

被害の最先端地域 (他市町村への被害拡大の危険性が最も高い)



被害先端地域では、空中写真や監視員により被害木を探索し、徹底的に駆除。

2 岩手県の対応

- (1) 松くい虫被害防除監視帯の内側に被害を封じ込め。
- (2) 被害の最先端地域では、徹底駆除による被害の北上阻止。
- (3) 被害まん延地域では、重要な松林の保全。

3 現在の対策と課題

- (1) 松くい虫被害防除監視帯及び被害の最先端地域
ア 対策

種々の防除事業を展開し、徹底した監視と駆除を実施。
最先端地域では、大臣命令による駆除を実施するなど、監視及び駆除事業を最優先で実施。

イ 課題

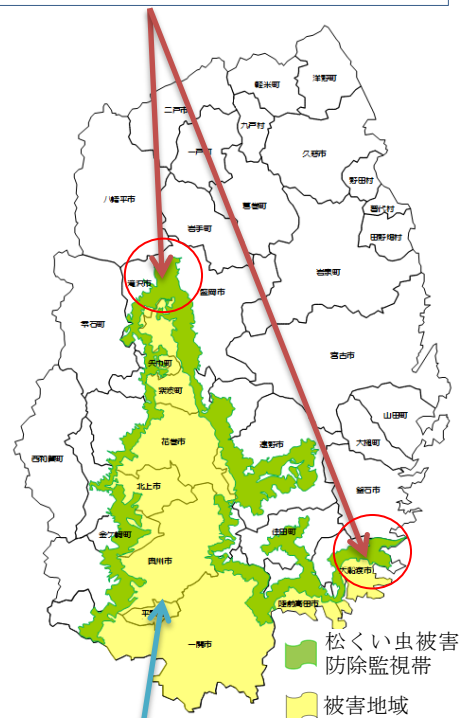
被害木の発見漏れ、労務の逼迫等により適期駆除がなされず、感染源が残されている可能性がある。

- (2) 被害まん延地域
ア 対策

正法寺や毛越寺等の重要な松林では、薬剤散布や樹幹注入により、徹底した予防を実施。
その他の地域では、被害木の駆除及び樹種転換を実施。

イ 課題

通常の駆除では被害終息が難しいことから、松林を他の樹種へ転換する「樹種転換」を奨励しているが、森林への関心の低さなどから年 10～30ha の低水準で推移。



被害まん延地域



被害まん延地域では、重要な松林の予防を徹底するとともに、樹種転換を促進。

4 今後の対応

- (1) 被害の最先端地域では、空中写真を活用するなど、監視を強化するとともに、大臣命令に加え知事命令により駆除を徹底。
- (2) 県内で建設が進んでいる木質バイオマス発電所等の大型木材利用施設において、松材利用を積極的に進め、被害まん延地域での樹種転換を促進。